

Letter for Members

【コンテンツ】

● IPS 第 38 回学術大会	85
● 支部学術大会	87
● EAO の認定制度について	91
● インターナショナル・オンライン・コース 「Designing Clinical Research」	92
● AAO 第 6 回学術大会	94

インド・インドール Indian Prosthodontic Society (IPS) 学術大会に参加して

馬場一美 (国際渉外担当理事)

2010年11月12日～14日に行われたインド補綴歯科学会 (IPS) 第38回学術大会に参加して参りました。本年度はインド中央部に位置する Indore で行われ、約1,200名が参加したとのことで、発展しつつあるインドの活力を感じることができました。

日本補綴歯科学会 (JPS) からは佐々木啓一理事長、九州歯科大学・鱒見進一教授、東北大学・小山重人先生、私の4名に加えて、JPSメンバーである水谷 紘先生 (前・東医歯大准教授) が IRPMD (International Research Project of Magnetic Dentistry) からの代表として参加されました。学術大会のプログラムには、前述の5名の招待講演が組み込まれ、JPSの影響が色濃く反映された学術大会でした。特に本年度で2年目を迎えた若手研究員の受け入れに対してはレセプション等のさまざまな機会において感謝の意が表せられ、学術大会に出席していたIPS会員・役員の方々からも多くのお礼の言葉をいただきました。東京医科歯科大学・谷口 尚教授、東京歯科大学・櫻井 薫教授、鶴見大学・大久保力廣教授、岡山大学・皆木省吾教授、窪木拓男教授、九州大学・古谷野 潔教授、ならびに関係各位へはこの場をかりてお礼申し上げます。

学会の発表は通常スタイルで行われましたが、ポスターセッションは屋外で行われ、さまざまな形のポスターが壁にぺたぺたと貼られている光景は大変興味深いも



佐々木理事長の挨拶



感謝状贈呈 (左, IPS 会長)

のでした。また、講演中に突然会場の電源が落ちて、会場が真っ暗になったことが数度あり、驚かされましたが、それにも増して真っ暗な中でマイクなしで講演を続けた



ポスターセッション



講演後質問に熱心に答える小山先生

演者にはもっと驚かされました。幸いにしてJPSメンバーの講演中にはそのようなトラブルはありませんでした。

大会期間中には盛大なパーティーが行われ、広大な敷地を利用して野外でさまざまなイベントとインド料理が振る舞われました。昨年と違って、インド象はいませんでした。強烈な音響の中、インドの若者がダンスに興じ、都会的な雰囲気のパティーでした。



パーティーにて踊る理事長！

今回のインド訪問を通して、佐々木理事長により推進されてきた“国際学術交流”が確実に実果を实らせつつあることを実感できました。次年度はインド人研究者受入3年目を迎えることとなります。また、第120回学



タージマハールのちょい悪おやじ

術大会では初めてインド補綴学会学会長の講演が予定されています。今後、両学会間のさらなる交流推進と発展を祈念しております。

【投稿募集】

Letter for Members では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、社団法人日本補綴歯科学会事務局（jpr-edit01@max.odn.ne.jp）まで、メールにてお寄せください。

支部学術大会報告

●東京支部学術大会

平成 22 年 10 月 16 日（土）、17 日（日）に昭和大学上條講堂で、昭和大学歯科補綴学教室・馬場一美大会長のもと、一般口演 20 題、専門医申請ケースプレゼンテーション 4 題に加え、多くのすばらしい企画の支部学術大会が開催されました。

Dr. Glenn Clark (USC) による特別講演 1（写真）では、バーチャルペイシエントによる最新の教育の紹介がありました。これは、日本語化されつつあるそうです。Dr. Roseann Mulligan (USC) による特別講演 2 では、アメリカにおける高齢者歯科の重要ポイントを日本とは違った視点で知ることができました。さらに、国際渉外委員会企画「インターナショナル・オンライン・コース」の 20 名の参加者から選抜された 3 名がこのコースで学んだ臨床研究デザインについて、インターネットを併用した成果発表会（写真）が行われました。生涯学習公開セミナーでは、武田孝之先生により「インプラント補綴による治療計画」についての実践的なお話がありました。夕方には東京支部では珍しく、多くの会員参加の懇親会も行われました。

2 日目には、「Digital Dentistry」に焦点を当てたシ



Dr. Clark と馬場大会長



インターネットを併用した成果発表会

ンポジウムで、宮崎 隆先生が「CAD/CAM と補綴診療への応用」、柏田聡明先生が「補綴修復のイノベーション」についてお話しされ、今後の歯科の在り方について大いに刺激を受けました。また、水谷 紘先生による「バネの見えないぴったり入れ歯—磁石を用いた義歯について—」と題した市民フォーラムも開催され、新進気鋭の大会長らしい国際的で実り多い学術大会でした。

（昭和大 佐藤裕二）

●東北・北海道支部学術大会

平成 22 年度東北・北海道支部総会ならびに学術大会が、札幌にて 10 月 23 日（土）と 24 日（日）の 2 日間にわたり、北海道大学口腔機能補綴学教室教授の横山敦郎大会長の下で開催されました。初日は、札幌駅前のセンチュリーロイヤルホテルにおいて市民フォーラムと懇親会が開催されたほか、北海道歯科医師会館では専門医ケースプレゼンテーション 5 題が実施されました。2 日目は、北海道歯科医師会館にて一般口演発表 10 題・ポスター発表 10 題、ならびにランチョンセミナー、特別講演と生涯学習セミナーからなる盛りだくさんのプログラムが催されました。

市民フォーラムでは、広島市総合リハビリテーションセンター・吉田光由先生による講演、2 日目のランチョンセミナーでは、東北大学教授・広島大学名誉教授の濱田泰三先生による講演が行われました。特別講演「MI と審美修復：接着テクノロジーの応用」では、北海道大学歯科保存学教室の佐野英彦教授が、最近めざましい発展を遂げている接着テクノロジーを応用した審美修復を



ポスター発表でのディスカッション



生涯学習セミナー（越智守生先生の講演）

紹介されました。生涯学習セミナーでは「予後から考える欠損補綴治療方法の選択」というテーマで、北海道医療大学の越智守生先生と北海道大学の野谷健治先生から、既存の欠損補綴法とインプラントとの選択に関する貴重な講演が行われました。最近の本支部会の動向として、大学の若手研究者や開業されている先生方の参加が目立つようになり、盛況な大会となりました。

（東北大 菊池雅彦）

支部学術大会報告

●関西支部学術大会

平成22年11月13日(土)、14日(日)に、関西支部学術大会が、前田芳信支部長を大会長として大阪府豊中市の千里ライフサイエンスセンターにおいて開催されました。本学術大会では、特別講演、生涯学習公開セミナー、一般口演13題、ポスター発表8題、専門医申請ケースプレゼンテーション3題の発表があり、280名の参加者を得て活発な討議が行われました。

田中昌博先生(大歯大)による特別講演「咬頭嵌合位を診る」では、これまでの研究成果から得られた咬合接触の評価法を中心に、先生が長年取り組んでこられた咬合の評価法の臨床的意義をわかりやすく解説されました。また、武田孝之先生(東歯大口腔インプラント科)による生涯学習公開セミナー「欠損を拡大しない補綴を目指して—欠損補綴におけるインプラントの役割—」は、欠損補綴におけるインプラントの役割を残存歯の保存すなわちさらなる欠損拡大の抑制と患者の口腔機能回復については健康増進の二点に焦点を当て、特に長期経過症例をもとにした解説がなされ示唆に富んだ内容でした。

そして何よりも、13日に行われた懇親会を兼ねたナイトセッションは、会場の定員一杯の100名の参加者を得て、前田照太先生(大歯大)と小野高裕先生(大阪



特別講演の田中昌博先生(大歯大)

ナイトセッション司会の
前田照太先生(大歯大)と小野高裕先生(大阪大)

大)の軽妙洒脱な司会のもと、少々アルコールも入ったこともあって、和気藹々とした楽しい会になりました。大歯大と大阪大の6つの教室が、研究、臨床、教育の最新のトピックを発表しましたが、参加者それぞれがひとつと言いたい(大阪弁で「いっちょかみ」と言います)精神を大いに発揮し、しばしば脱線した質問や、発表とは関係のない主張が飛び出し、大いに盛り上がりました。(大阪大 池邊一典)

生涯学習公開セミナーの
武田孝之先生(東歯大)と
前田芳信支部長

●東海支部学術大会

平成22年11月20日(土)、21日(日)に、平成22年度東海支部総会ならびに学術大会が、松本歯科大学講堂において、黒岩昭弘教授(松歯大)を大会長として開催されました。今年度は一般演題が18題という内容で、昨年以上の演題数が集まり、大変な盛会のうちに終わりました。また、例年開業医の先生方からの臨床報告も多数みられるのは、本学術大会の特徴です。

学術大会と併催された生涯学習公開セミナーでは、「総義歯における人工歯排列を再考する」と題して、千葉県の村岡秀明先生と神奈川県に加藤武彦先生が講演されました。村岡先生からは、下顎の顎堤の吸収が著しい症例に対して人工歯排列を行う際のポイントについて、加藤先生からは、歯槽頂間線の法則では対応できなくなった難症例へのアプローチについてお話を頂きました。

また、市民フォーラムとして、東京歯科大学の阿部伸一教授による「知っておきたい人体“食べること、のむこと”の神秘」と題した講演が行われました。阿部先生には、日常は意識することなく物を食べて飲み込んでいる動作であっても、実際のメカニズムは非常に複雑で

村岡秀明先生による
生涯学習公開セミナー

阿部伸一先生による市民フォーラム

加藤武彦先生による
生涯学習公開セミナー

まざまな組織が連携をとって動作が成立しているということについて、大変わかりやすくご教示頂きました。

(松歯大 山下秀一郎)

● 関越支部学術大会

日本補綴歯科学会関越支部平成 22 年度学術大会を、平成 22 年 11 月 21 日（日）に“新潟大学 駅南キャンパス ときめいと”において開催しました。特別講演として、新潟大学医歯学総合病院医療情報部 赤澤宏平教授に“歯学の研究における統計解析の使い方とその結果の解釈”という題で基礎から応用へのまとめ、さらには英文誌への投稿の際の注意点をご教授いただきました。

同時に開催した生涯学習公開セミナーでは大阪大学先端科学イノベーションセンター 野首孝祠教授に“生体の情報を有効利用する義歯の製作と機能評価—ピエゾグラフィ、下顎位置感覚、咀嚼能力評価を中心に—”と題するご講演をいただきました。

一般口演も、通常より質疑時間を長くしたにもかかわらず討議が続き活発な会となりました。特別講演、公開セミナーも好評で、終了後質問が続き、演者が懇親会へなかなかたどり着けない状況で、熱心な討論が懇親会まで続きました。（新潟大 小林 博）



特別講演：新潟大学医歯学総合病院医療情報部 赤澤宏平教授



生涯学習公開セミナー：大阪大学先端科学イノベーションセンター 野首孝祠特任教授



会場：新潟大学 駅南キャンパス ときめいと

● 九州支部学術大会

平成 22 年度九州支部学術大会が、11 月 27 日（土）と 28 日（日）の 2 日間にわたり、熊本市の熊本県歯科医師会館において開催されました。本学術大会は「臨床に生かす補綴学—研究から最新技術まで—」をテーマのもと、九州大学の古谷野潔教授が実行委員長を務められ、熊本県歯科医師会会長浦田健二先生を大会長に迎えて、熊本県歯科医師会との共催で実施されました。

昨年に引き続き、15 題の口演はすべて招待講演、一般発表 22 題はすべてポスター発表という形式で、土曜日は各大学で研究を牽引している准教授、講師を中心とした若手研究者からホットな研究報告がなされ、翌日曜日は補綴臨床に経験の深い臨床家、大学人による、幅広い臨床的な講演が行われました。また併せて 3 名の教授の先生方による総括的な講演もプログラムされ、2 日間を通して非常に中身の濃い、そしてアクティブな学術大会であったと思います。

さらに日曜日の午後には、日本補綴歯科学会生涯学習セミナーが併催され、「咀嚼機能の長期維持に生かすインプラント治療戦略」のテーマのもと、水上哲也先生（福岡県開業）は歯周病患者におけるインプラント治療戦略を、細川隆司先生（九歯大）はインプラント補綴治療介



口演の質疑応答も同時に行われ、盛況なポスター会場



生涯学習セミナーでの松下先生ご講演

入におけるパラファンクションについて、松下恭之先生（九州大）は多数歯欠損症例におけるインプラント治療のマネジメントについて講演されました。3 先生の明確かつ真摯な講演は、会員、非会員を問わず非常に実りの多いものでした。（長崎大 澤瀬 隆）

支部学術大会報告

●西関東支部学術大会

平成22年11月28日(日),甲府市総合市民会館にて,山梨県歯科医師会会長・三塚憲二先生を大会長,山梨県歯科医師会共催の下,平成22年度西関東支部総会ならびに学術大会が開催されました。

一般口演8題,ポスター発表14題,専門医申請ケースプレゼンテーション1題に加え,シンポジウム「メタルフリー治療の実際とその恩恵」と題して鶴見大学の中村善治,積田光由両先生によるオールセラミック修復物の理工学的性質や装着後のトラブルとその対処法に関する有意義なご講演がありました。また午後からは,生涯学習公開セミナー「部分床義歯設計のすすめ」として,鶴見大学の久保力廣,阿部 實両先生による部分床義歯の設計原則とすれ違い咬合の基本的な考え方を中心としたご講演がありました。

またこの日は「8020運動」の推進を目的とする「第27回山梨県民歯科保健のつどい」が同時開催されており,多くの市民の皆様が参加されておりました。この際に配布された小冊子の中に,補綴学会で製作された「補綴歯科ってなに?」のパンフレットも添えられており,「補綴」を理解するうえでの一助になったのではないかと思います。このプログラムの中に市民フォーラムが組



一般口演の様子

「歯科保健のつどい」の模様
盛りだくさんの内容で市民の参加も多かった。

み込まれており,神奈川歯科大学の井野 智先生の「健康的な歯と長く付き合うために」と題した最新の歯科事情のご紹介に,市民の皆様が熱心に耳を傾けられておりました。今回の学会は内容も濃く,充実した賑やかな学会となりました。(鶴見大 高山慈子)

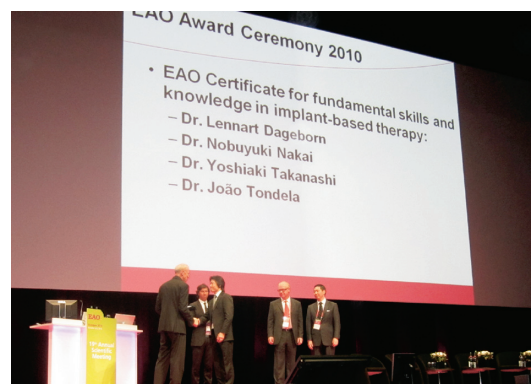


European Association for Osseointegration (EAO) の 認定制度について

中居伸行 (関西支部)

去る10月5日、6日の2日間、英国・グラスゴーにおいて、European Association for Osseointegration (EAO) による初のCertificate試験が年次総会に接続して実施されました。European Association for Osseointegrationは、インプラント関連では現在最もインパクトファクターの高い雑誌Clinical Oral Implants Researchの発行学術団体です。そのEAOがこのたびCertification制度を開始しました。基本的にはfundamental skills and knowledgeが問われます。HPでは、「口腔インプラント学における最低限の基準に対するものに公式に与えられる」とされています。また、受験者が「implant-based therapyのコア知識を示し」、「実直な口腔インプラント治療のプランニング能力と実行能力を示す」ことができるようになることを目的としています。年1回の学術大会と同時に行われます。ここで、資格を得た者は、ヨーロッパ国内で(その国の法制下)公共にその資格を示すことができるようになるそうです。非会員でも受験は可能です。

合格者4名中、私を含め日本人が2名(高梨芳彰先生・東京支部)でした。選考は3段階からなります。第1段階は書類選考です。学会が細かく指定した各種症例6ケースを様式に沿って作成、提出します。そのほか、インプラント学に関する250時間以上の理論および実技のトレーニング歴等が問われます。この時点で、不備があったものは不受理となります。受理された者には学会2、3日前の試験日時が指定されます。第2段階は筆記試験です。選択式80問、220分の試験で内容はインプラント学に関する広範な内容が出題されます。補綴、外科、歯周病などインプラント学に直接かかわる内容に関しては比較的容易に回答できるものの、解剖、薬理、病理、放射線、医学統計、歯科理工など基礎全般に広範な出題となっており、この部分での回答がなかなか難しい



セレモニーの様子

と個人的には感じました。当落は即日判明します。最終段階は翌日、提出済みの6ケースのなかから2ケースピックアップされ、教授クラスの試験官3名に1時間わたくしにわたってプレゼンテーションに伴う質問を受けます。非常に高い技術的達成を見てもらうというよりは、一つひとつのステップにどのような科学的知識、根拠をもって行ったかということが重要視されていたと思いました。

いずれも内容的にはバランスのとれた教育的で優れた設問でした。私見ですが、受験すること自体に教育的効果があると感じており、また審査のfairnessと厳しさに非常に感銘を受けました。また、10名書類受理、4名合格という結果からもわかるように、受験者、実施者双方に非常に労力を要する試験であり、今後も当分は受験者を絞り込んでいく模様です。さらなる受験資格、問われる知識、費用、さらに詳細な審査過程に関しては、EAOのWebページ(<http://www.eao.org/>)を参照してください。Webページをご覧になってまだご不明の点があれば中居までご質問をメール(nakai@ndo-kyoto.jp)で承ります。ぜひ多くの方、特に補綴学会員の方にチャレンジしていただきたいと思います。

インターナショナル・オンライン・コース 「Designing Clinical Research」報告

樋口大輔 (国際渉外委員会)

(社)日本補綴歯科学会は昭和大学と共同で、若手研究者を対象にインターナショナル・オンライン・コース「Designing Clinical Research」を開催いたしました。コースのコーディネータは、南カリフォルニア大学教授で昭和大学歯科補綴学教室に客員教授として滞在中の Glenn Clark 先生と Roseann Mulligan 先生で、コースデザインの開発、ウェブ・サイト作成とコースの総括を Clark 先生が、講義コンテンツの作成と受講者が作成した研究プロトコルの評価を Mulligan 先生が担当されました。

7月12日に始まった本コースには全国14大学より20名が参加し、受講者は毎週提出が求められるレポートとオンライン・テスト、Webカメラとマイクを用いて行われるオンラインディスカッションへの参加を通して臨床研究の構造と機能について非常に多くのことを学びました。今回は ViVu というシステムをメインに、スカイプをバックアップにて使用し、オンラインコースを構築しましたが、このようなインターネット回線を使用したオンラインコースは応用範囲も広く、今後ますます活用されていくことが予想されます。

本コースの総仕上げとして、日本補綴歯科学会東京支部会の全面的な協力により、第15回東京支部学術大会(10月16日、17日、昭和大学)において Clark 先生による当コースの講評と、受講者による成果発表会を行いました。この発表会では Clark, Mulligan 両先生により選ばれた3名の優秀研究プロトコル作成者が自ら立案した研究プロトコルを発表しました。厳正な審査を経て、最優秀賞に榎原絵理先生(九州歯科大学)、優秀賞に會田英紀先生(北海道医療大学)、高岡亮太先生(大阪大学)が選出されました。なお、現在アメリカに留学中である榎原先生の成果発表と質疑応答は会場とロサンゼルスとをインターネット回線でつなぎライブにて行われました。このような中継によるプレゼンテーションは初めての試みでしたが、昭和大学 AV センタースタッフの全面的なバックアップにより無事行うことができました。

また、学会に先立って行われた Clark 先生とオンラインコース受講者との懇親会には佐々木啓一理事長にも



Glenn Clark 先生



Roseann Mulligan 先生



中継で発表を行う榎原先生



優秀賞の會田先生(左)と高岡先生(右)

ご参加いただきました。佐々木理事長からは、両先生への心からの感謝の意と、受講者に対しては補綴学会としても“良質な臨床研究”を推進するつもりであり、コース受講者の今後の活躍に非常に大きな期待をよせている



懇親会での記念撮影

旨、ご挨拶がありました。

最後に本オンラインコースを快く引き受けてくださった Clark, Mulligan 両先生、ご理解とご協力をいただきました佐々木理事長、矢谷博文学術委員会委員長、新谷明喜東京支部長、国際渉外委員会の皆様、ご参加いただきましたコース受講者の先生方に感謝申し上げます。



●オンラインコースを受講して

楨原絵理

九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野

University of Southern California, School of Dentistry

大学院時代を含め、臨床研究に携わるようになって7年が経過しました。ちょうど、自分の理想の研究者像について考える時期に差し掛かっていたとき、Dr. Glenn Clark の Clinical Research Design Course を受講する機会に恵まれました。

オンラインビデオによる講義を受けて、種々の臨床研究デザインの特徴を知ることができ、何故 Null hypothesis を立て、サンプルサイズを算定することが重要であるかを考えるようになりました。また、研究中に生じるバイアスや交絡因子への対策を練ることや、盲検化・ランダム化が、研究の真度や定度を上げることにどのように繋がるかということもよく理解できました。それらを通じて、「論文を読む」とは一体どういうことなのかということも少しだけ解るようになりました。論文中の実験方法や結果だけでなく、統計処理方法や、研究途中でドロップアウトした被験者の扱い方、その研究の欠点についてどのように記載しているかに注意して読んでいくことで、今まで見えなかった論文の真髓や、その研究者の研究

への取り組み方が少し見えてくることにも気づかされました。ビデオカンファレンスでは、自分の質問だけでなく他の先生方から出された質問に対し Dr. Clark がどのように答えられているかを観ることで、これから自分が学生を指導するときの心得も知ることができました。また、何よりも嬉しく楽しみだったのが、毎回の課題に対し、Dr. Clark と Dr. Roseann Mulligan のお二人の先生がコメント付きで評価を下さることで、とても大きな励みとなりました。今回の Course を通して、改めて研究の面白さ・魅力を感じることができました。また、今回の Course で学んだことに関して学会発表する機会を与えていただきました。オンラインでの発表は初めての経験でしたが、学会主催スタッフの先生方に御協力いただき、無事に終えることができました。

最後に、私の Course への参加を容認していただいた昭和大学の馬場一美教授をはじめ、公正に審査して下さった多くの先生方に衷心より感謝の意を表します。

韓国・ソウル The 6th Congress of Asian Academy of Osseointegration (AAO) 参加記

越野 寿 (北海道医療大学)

2010年11月12日～14日までの期間、韓国のソウルにおいて古谷野 潔副理事長と Sang-Wan Shin 教授（韓国）が会長をつとめる Asian Academy of Osseointegration (AAO) の第6回学術大会が開催されました。AAOは、アジア地域におけるインプラント治療の啓発と発展を目指して、日本と韓国のリーダーを中心に立ち上げられた学会です。会員は日本、韓国、台湾、中国、インド、タイ、インドネシア、マレーシア、シンガポールなどからの人々で構成されており、本学会からも多くの会員が参加していました。日本からはシンポジストとして、佐藤豊彦先生（群馬大学）、鮎川保則先生（九州大学）、矢島安朝先生（東京歯科大学）、萩原芳幸先生（日本大学）、関根浄治先生（鳥根大学）、横山敦郎先生（北海道大学）の6名の先生（以上、プログラム掲載順）が口演をされました。さらに、一般演題として口演8題（全体で21題）、ポスター発表25題（全体で69題）がありました。このうち、口演発表のうち10題が Oral Presentation Competition の審査対象であり、本学会員から江草 宏先生（大阪大学）と會田英紀先生（北海道医療大学）の二人が Best Oral Presentation Award（それぞれ1位と3位）に選ばれました。また、ポスター発表では平田恵理先生（北海道大学）と近藤大介先生（九州大学）の二人が Best Poster Presentation Award（それぞれ1位と2位）に選ばれました。このことは AAO における日本のリーダーシップを裏付けるものと考えます。

学術プログラムの他に、President Reception と Dinner Cruise があり、参加者一同が親交を深め合いました。特に漢江を周遊するディナーナイトクルーズは大いに盛り上がり、参加者は遊覧船のデッキに出て、漢江にかかる橋の美しいライトアップと噴水ショーに酔いしれ、思い思いに記念写真を撮っていました。閉会式では、2011年の第7回学術大会はタイにて開催されることが述べられ、盛会裏に終了となりました。



左から、鮎川保則先生、寺田善博先生、古橋明大先生、會田英紀先生、筆者、櫻井 薫先生



漢江ナイトクルーズでの美しいライトアップと噴水ショー



第7回学術大会はタイにて開催予定
(写真：左から古谷野 潔副理事長と Sang-Wan Shin 先生)